

## 参考文献から「研究ピース」をつくる

### 「研究ピースづくり」が研究・論文執筆の基本

論文は、はじめから書こうと思って書けるものではない。そもそも研究対象に関する知識がなければ、具体的な研究テーマも、フィールドワークの方法も思いつかない。そのため、まずは文献調査（読む・書いてまとめる）を通じて、研究しようと思っている対象についての知識を増やす。読書で知識を得ることと、得た知識を記録することが、論文を書くことの基本だ。

#### 【研究ピースは論文のカケラ】

下図のような情報のまとまりを、この授業では「研究ピース」と呼ぶ。ピース (piece) の名が示すように、これは研究の過程で作る論文の「欠片(かけら)」の事だ。以下に研究ピースの例を示す。

#### コミックマーケットの存在意義は何か

「コミックマーケット」を研究するにあたり、その存在意義について考察する。コミックマーケットを巨大なイベントに育てた、創立者の一人である、霜月たかなかの著作から、以下引用する。

まんがを描くことが子供じみた行為とされた昔は、作家になれなければ、描くことを断念するしかなかったのだ。そんな二者択一を三者択一に増やしたのが、コミックマーケットであり、まんがを作れる者ならばだれでも「作家」と「読者」の関係を持つことが出来るようになった。(中略) いま、僕にとってはこの「選択肢を増やした」ことだけが、コミックマーケットを作ってよかったと思える唯一の根拠となっている。(霜月, 2008, p.211-212)

コミックマーケットの活力の源は、この「だれでも作家になれる」という回路を作り上げたところにある。誰もが自分の努力(まんが作品)を発信者として、それを求める人々に手渡せる場を作り上げた事が、コミックマーケットの存在意義だ。作家が描きたい作品を作り、それを求める読者が現れる。コミックマーケットではこうして生まれた多くの作品と、何十万という読者が出会う。ここに文字通りのコミックの「マーケット(市場)」が成立する。

参考文献を読んでいて「大切だ」「面白い」「なんで？」などと思った箇所、付箋を貼った箇所を、研究ピースにまとめていこう。そのような箇所には、研究対象に対するあなた自身の問題意識や関心が宿っている。気になる情報を研究ピースにすることで、この先の研究の方向性を探することができる。

参考文献に付箋を貼り、その本の一部分を引用(正確に丸写し)して、自分のコメントを加え、情報をまとめよう。研究ピースづくりが卒業論文の執筆そのものだ。細胞が増えて生物が育つように、研究ピースが増えて論文が育つ。文献を読み、ピースにまとめる事を繰り返して、論文を育てていこう。

## 【研究ピースのルール】

研究論文とは、事実や根拠を元に自身の意見を述べる文章だ。国語科の文章分類でいえば「論説文」や「説明文」にあたる。そのため、これまで君たちが書いてきた「感想文」や「随筆文」「創作文」とは根本的に異なる。「自分が思ったことや、感じたこと(=感想)」ではなく、「事実や根拠に基づいて、自分の意見を述べる、主張する」ことが求められる文章なのだ。

そのような、自分の意見を述べたり、主張したりする文章には、書く上でのルールが存在する。想いを書き綴るのでなく、論理で相手を納得させないといけないからだ。論文の欠片である研究ピースも同様に「書き方」が存在する。自由に書いて良いわけではなく、書き方のルールを守らないといけない。

研究ピースはいくつかの部位で構成されており、すべての部位でルールを守って書かなければならない。はじめは堅苦しく思うかもしれないが、研究ピースを書けるようになることは、論文執筆の「型」を学ぶようなものだ。ここでは、それぞれの部位の役割と書き方を解説する。

A. **タイトル**には、この研究ピースの内容を一言で表す言葉を書こう。例：「〇〇とはなにか」など

B. **まくら**とは落語の用語で、本題に入る前の小咄(こばなし)を指す。最近の言葉では「前フリ」ともいえる。本題と関連する話題を先にして、「今からこういう話を書く」と宣言する。このピースを書く理由(〇〇を研究するにあたり、〇〇とは何かについて考える必要がある)や、引用文の著者の情報(経歴、研究内容)を簡単に書いてもよい。

C. **引用**とは「そっくりそのまま丸写しする」という意味だ。参考文献を読んでいて気になったところを、一言一句、間違えないように写す。

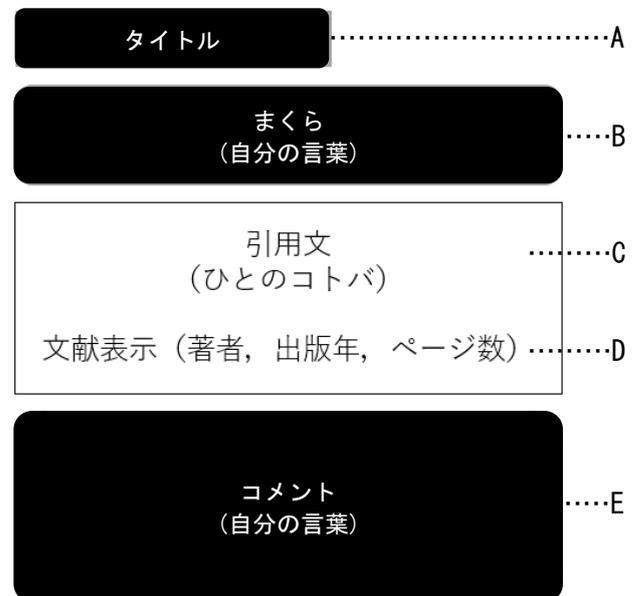
D. **文献表示**には、引用文をどの文献のどのページから抜き書きしたのか、出典を書く。自分が参考にした資料の情報を記載することは、論文を書く上で最も大切なルールであり、絶対に忘れてはいけない。ここでは「霜月, 2008, p.211-212」のように、(著者姓, 出版年, ページ数)の順で出典情報を書く。

E. **コメント**には、引用文を読んでわかったこと(要約)/引用文に対する自分の意見や考察などを書く。先に「研究論文とは、事実や根拠を元に自身の意見を述べる文章だ」と述べたことから、研究ピースのコメント部分で、どれだけ自分の意見を述べられるかが、論文のよさを決める。

**欄外へのメモ書き.** ピースに使用した**文献情報**を書き残そう。書き方のルールは以下の通りだ。

出典表示の例：霜月たかなか, (2008) 『コミックマーケット創世記』 (朝日選書 150) 朝日新聞社

また、この研究ピースを書いてさらに自分が疑問に思ったことなどもメモ書きしておこう。次の研究ピースづくりのネタに使える。理由は後から説明するが、PCで原稿を書く際にひじょうに役に立つ。



## 「好き」からはじまる論文の育ち方

論文ではだれしも、テーマ(問い)を設定して結論(答え)に最後は結び付けるものだ。しかし、それまでの論文が育つ道のりは様々だ。

はじめから「外来魚問題をなんとかしたい」といった問題意識があって、それを解決するために論文を育てる人がいる。一方で、いいこと・メッセージがはじめからあって、それに応じた問いや理屈を考える人もいる。

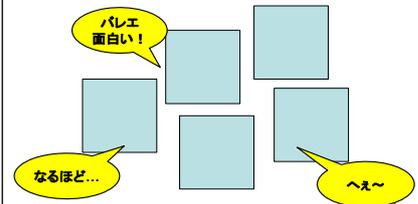
とはいえ、たくさんの生徒のテーマ設定を見ていると自分が「好きだ」という分野を学んでテーマを探っていく場合が多い。『好き』は最強の武器」ともいう。しかし、「好き」からはじまる論文作成は、資料集めこそ比較的楽に進むものの、テーマ設定には時間がかかる場合が多い。また思わぬ落とし穴もある。具体例を通じて解説する。

- ① ある高校生(女子)はバレエが好きだ。基礎的な資料を読んで、ピースをひとつ作った。
- ② とにかく興味があるので、資料を読むと知らない事も多く、楽しく順調にピースが増える。
- ③ ピースが集まると似たピースをまとめてタイトルをつけることができるようになる。はじめはバレエの定義や起源や歴史をまとめた「バレエとはなにか」というかたまりができた。この小さなテーマ(問い)でとりあえず小論文ができた。
- ④ 順調に見えた論文作成だが、悩みも深まってきた。それはバレエを「どんな切り口で取り上げるのか」という悩みだ。「好きだから一体何なのだろう?」というわけだ。
- ⑤ いろいろと考えるうちに技術的には優れているのに、日本ではバレエに対する需要が少なく、バレエ団の経営も厳しいことに気づいた。どうやら海外と比較して、教育の仕組みもかなり異なるようだ。おまけに「男性がタイツをはいて踊るのはどうも…」とバレエを見たことのない人からいわれる始末である。「どうしてこんなに素敵なのに、なぜみんな知らないの? 嫌うの?」という思いが強くなってきた。
- ⑥ そこで「バレエはなぜ日本に受け入れられないのか」というテーマを考えた。同時に、実際にプロのダンサーや衣装のお店の方にお話を聞いてみた。

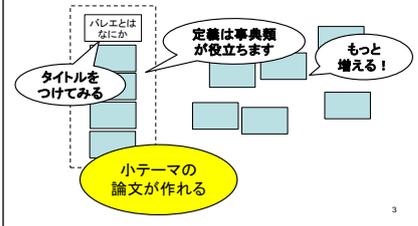
### ①はじめはひとつのピースから



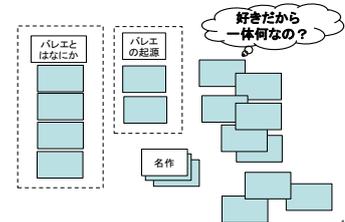
### ②好きで面白いからピースが増える



### ③ピースが集まってかたまりができる



### ④かたまりが増えるが悩みも



### ⑤テーマと目次が姿を現す



⑦ このようにしてメインテーマのもと、論文の構造が見えてきた。序章（はじめに）では論文の意義を述べ、各章の構成を紹介した。一章では、バレエの定義や歴史、二章では教育の国際比較、三章ではインターネットをつかって調査した公演の価格を述べ、四章ではインタビューをまとめた。こうして結論として「日本のバレエはなぜこれまで受け入れられなかったのか」の理由を述べ、最後に「需要創出のための業界の努力」の提案を添えた。

このようにしてこの生徒の論文は無事着地した。振り返って「バレエの名作」や「バレエの歴史」などのかなりのピースを捨てることにもなった。よい論文はテーマのから結論まで無駄なく結ぶべきなので、それ以外の「こんなに勉強しました」はバッサリ切ってしまうことになる。

さて、この生徒は具体的なテーマを立てられたのでよかった。一方で「好き」からはじまる生徒の論文のタイトルに良く出るフレーズがある。「なぜ人気なのか」「なぜ魅力なのか」「なぜ愛されるのか」などだ。要は、これらは研究対象が「なぜ好まれるか」を問う

ている。しかし、これらの研究は面白くない。というのも、世の中の流れに乗った理由探しは常識的でつまらないからだ。確かにラーメン・ゲーム・ディズニー・YouTube は人気で、愛されて、流行している。しかし、そうした常識を確認しただけの研究は、「みんなそう思ってるよ。それがなにか？」といわれるのがオチだ。

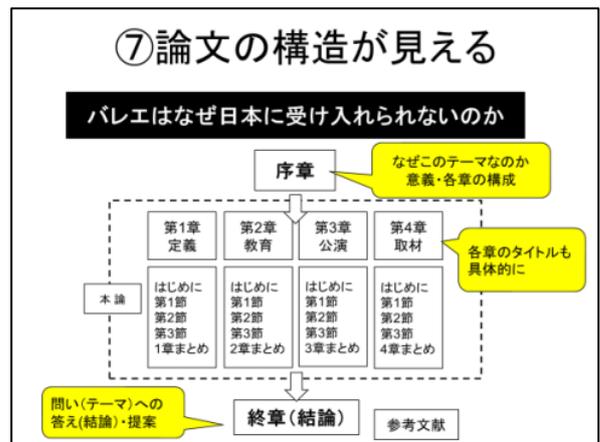
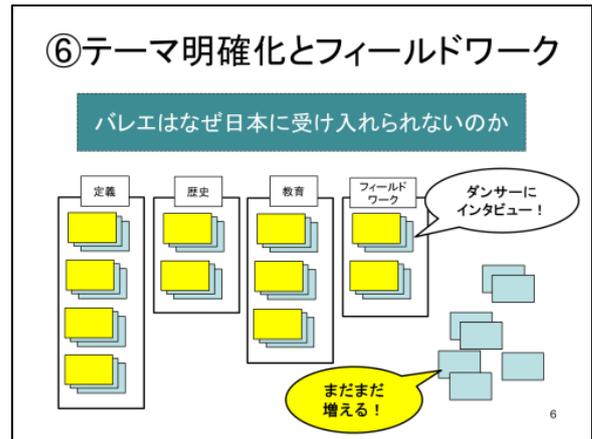
「好き」で始めるなら、バレエの例でみたように、愛しているからこそその、課題や問題点(時には怒りや憤り)を見いだしてテーマとしたい。

#### [アドバイス]

- (1) 「題材 問題」「題材 課題」で検索してみるとヒントが見つかる。
- (2) 「いい題材やテーマが見えてから、ピースを作ろう」と考えない。題材やテーマがいいか悪いかは、資料を読んで、ピースを作ってみないとわからないから。「節約モード」「コスパ野郎」の研究は結局時間を無駄にする。

#### [問い]

- (1) 題材発見やテーマ設定には、おおまかに三つのはじまり方がある。それぞれどのようなものか。
- (2) あなたが「好き」ではじめた場合、現在①～⑦のどの局面にいるか。理由はなにか。
- (3) 「好き」ではじめた人の研究テーマがつまらなくなるのはどんな場合か。
- (4) 「いい題材やテーマが見えてからピースを作ろう」と考えてはならない理由はなにか。



# こんなテーマはあかん

## テーマにならない分野と方針

自分も先生も納得できる「問いの形のテーマ」を設定するのは簡単ではない。「テーマが決まれば卒業研究は八割終り」だ。それぐらいテーマ決めは難しい。研究の「分野」は決まっている、しかしそこからテーマにならない問いを立ててしまう生徒が毎年現れる。ではどんな問いが良くないのか。

ここから書くことは、「超中学生級」のアドバイスだ。高校生（大学生）でも、「テーマを決める（問いを立てる）」道のりで苦しむ。中学生が苦しむのは当然だ。しかし、あえて本物の研究をしようと思ったら、この8つのアドバイスを避けては通れない。「良薬は口に苦し」である。

### ① まんまテーマ…調べるだけで終る

「疑問文にきなさい」と言われ、そのまんま疑問文にしている。「**文房具の世界とは**」「**人々を癒し続けるアロマとは**」「**パラスポーツって**」「**マウンテンバイクって何**」などがそうだ。このままでは、文房具やアロマやパラスポーツを調べただけになりそうだ。というのも、これらのどれも「定義」を問うているだけだから。簡単にいうと、「百科事典を紹介すれば済んでしまいそうなテーマ」だ。とはいえ、定義が立派な問題になる場合もある。たとえば高校生の石川大地君の「**パラリンピックはリハビリかスポーツか**」（分類 780.69）などは立派なテーマだ。「まんまだね」と言われたら、その分野をもっと学んでいこう。そのうちに価値あるテーマが現れる。この点についてはプリントNo.12を参照。

### ② いいとこ取りテーマ…人気や魅力や流行のわけを研究しても面白くない

テーマで良く出るフレーズがある。「**なぜ人気？**」「**なぜ魅力？**」「**なぜ愛される？**」「**なぜ心を打つ？**」「**なぜ流行る？**」「**なぜ注目される？**」などだ。別名を「好き好きテーマ」という。要は研究対象が「なぜいいのか？」をこれらは問うている。とはいっても、これらの研究は面白くならない。なぜなら、人気で流行っているモノ・コトの理由を探するのは的簡単だからだ。そのままでは、様々な本の中から人気の理由の「いいとこ取り」をして終わる。とはいえ、それまで他の人が注目しなかった、**ディズニー**や**YouTuber**や**カラオケ**や**無印良品**や**韓国コスメ**や**LEGO**の流行の理由を見出すのであれば、それは価値がある。

### ③ 上から目線テーマ…論文は呼びかけたり教えたりしない

研究は下から差し出すものだ。つまり「こんな問い（テーマ）で考えてみましたが、いかがですか？」が、研究の正しい態度だ。「知らない人に教えてやる」という、上から目線であってはいけない。たとえば「**ヨーグルトって知ってる？**」「**あなたの視力は良いですか？**」がこの例だ。

### ④ 未来予測テーマ…なんとでもいえる

「**日本経済はどうなるか**」「**冷凍食品はどこまで進むのか？**」といった予想・予測をテーマにするのは難しい。簡単にいうと、何とでもいえる場合が多い。以前の高校生の仮テーマからも引用する。かっこ内はそのテーマへのコメント。

「日本のこれから：日本はどうなっていくのか」（わからない）

「世界の民族問題におわりはあるのか」(たぶん終わらない)

「オートバイの未来：ガソリンに頼らないオートバイは造れるか」(売っている)

「阪神は今年優勝するか」を考えてみよう。「絶対優勝」の予測とその理由ならなんとでも言える(その逆も簡単)。一方、「2005年阪神はなぜ優勝できたのか」という過去の事実についてなら検証は可能だ。将来どうなるかという予測は、検証可能な問題に答えた上で、控えめに述べる程度が限界だ。

#### ⑤ HOW TO (ハウツー) テーマ…結局は本人の努力次第

中学生が陥りやすい方針だ。「どうすれば英語が得意になるか」「どうすれば記憶力(集中力)をアップできるか」「身長(競技の記録)をのばすには」「俳優になるには」といったテーマは避ける。なぜなら、その目標が実現できるかどうか、個人の決心や運や努力や素質に左右される場合が多いからだ。めでたく成功した例をいくつもあげることができる。しかし、それは「〇〇で難病が治った!」という怪しい広告とあまり変わらない。いいことづくめの「ハウツーもの」のテーマは避けるべきだ。

#### ⑥ 現在進行形テーマ…プロの研究者も避ける

「現代のファッション」「SNS」「VR」や現在人気のアイドルなど、今動いている問題は資料的に追いきれないことが多い。日々のネット情報や新聞雑誌情報を追いかけるのは論文ではなくマスコミの仕事である。こうした分野は、相当の力が必要。また、たとえばAKB48のように、資料が「本」として出版されている範囲で扱う。

#### ⑦ 高度専門テーマ…無茶をしない

「邪馬台国はどこにあったのか」は立派なテーマである。しかし、この論争に加わることは素人には不可能に近い。「ガンをどう克服するか」も同様の理由で難しい。中学生が時々卒業研究で取り組む「相対性理論」「ブラックホール」もそうだ。さらに、「液晶ディスプレイ」「コンピューターウイルス」のように最先端の技術を扱うのも専門的な知識が必要となる。大まかなことを学んで(なで回して)終わる。

#### ⑧ 巨大テーマ…手におえない

「農業」「経済」「宇宙」「生命倫理」「インターネット」「資本主義と社会主義の違いとはなにか」といった、分野に正面から取り組むと消化不良になる。扱う分野が大きすぎるからだ。「心とはなにか」「正義とはなにか」も同じだ。その問い自体は根本的で大切でも、中学生が取り組むには難しすぎる。とはいえ「経済」や「正義」に関心があるのは自然なので、テーマを見つけるためにあつかう範囲・分野を小さくする。範囲が限定されて具体的になるほど、資料も限定されテーマが見えやすくなる。

### 興味は間違わない:時間をかけて学ぼう

ここまで読んでがっかりしたかもしれない。研究分野は早めに決めたい。しかしテーマ(問い)はゆっくり決めていい。提出直前に決まるのも珍しくない。

ここに書いたように、研究のはじめに書かれたテーマを取り上げると、かなり厳しいことも書かざるを得ない。しかしそれは、みなさんの「興味やその方向が間違っている」ことを意味しない。テーマを絞ったり、視点や取り扱い方法を変えたりすれば、みなさんの興味がよいテーマとなる可能性は十分にある。

落胆することはない。だれでも研究はそこから始まる。興味があるならテーマはかならず深まる。関心のある分野の知識を得るにつれて、その分野を写すだけの「調べました学習」から、あなた自身の「問い=テーマ」を持った研究が始まるはずだ。

## 「なんでやねん」誤解コレクション

### 研究を難しくする7つの誤解

知識を学んでテストで答える、ふだんの授業と「なんでやねん」は違う。自分でテーマを定めて進む、主体的な「探究学習」だ。それだけに、これまでの勉強の経験が役立たない場合も多い。しかも、「これまでそうだったから『なんでやねん』もそうだろう」という思い込みが、論文作成の邪魔をする。そんなあるかもしれない考えちがい・誤解を以下7種類紹介する。

#### ①「学習手段説」という誤解：アリバイ君・ノルマちゃん

「勉強はつまらないし苦しいだけのノルマだ」と思い込んでないだろうか。成績のため、怒られないためだけに勉強する、と考えると苦しい。こういった誤解を「学習手段説」と呼ぶ。愛称は「アリバイ君」「ノルマちゃん」だ。勉強がただの「手段」なら、「興味があっておもしろいから」ではなく、「サボってないよ」という証拠（アリバイ）づくりのためだけに学ぶ、そんな癖がつく。長い学校生活、これは悲しい。

#### ②「コスパ優先説」という誤解：楽ちゃん・コスパ野郎

もし学習が手段にすぎないなら「なにか楽なテーマを見つければいい」と考えても不思議ではない。「どうせなら楽に要領よく過ごしたい」そう考えるのももつともだ。そこで、このような誤解を「コスパ優先説」と呼ぶ。愛称は「楽ちゃん」「コスパ野郎」である。では、「楽ちゃん」は本当に楽か、というところでもない。というのも楽なだけのテーマはひとつもないからだ。たとえ書きやすく楽そうなテーマを選んでも、興味がなければ苦しいだけだ。一方で、「コスパ」とは、かけたコスト（費用・労力）に対する、パフォーマンス（効果・能力）の程度を意味する。論文に面白く取り組めば、みなさんのパフォーマンスは計り知れない。先輩の論文を読めばそれはある程度はわかる。とはいえ、論文を書いた後に得られるパフォーマンス（充実感）を、みなさんはまだ知らないし、想像もできない。当然、自分が知らない効果や能力に、どれだけ費用をかけたらいいかもわからない。ところが、「コスパ野郎」に限って、わかりもしないのに、ただ楽をしようと労力を出しおしりする。するとどうなるだろう。結局コストだけがかかる。だらだら時間が経過し、追い詰められて、なんのパフォーマンス（収穫）も得られず、不満だけが残る。こんなにリスクの高い振舞いはない。論文づくりは「楽しくて大変」か、ただ「大変」のどちらかだ。一刻も早く、コスパ野郎の泥沼を抜け出そう。

#### ③「キャラ優先説」という誤解：イチゴちゃん／ピエロくん

自分自身の興味より、人からどう見られるかを優先して題材を考える誤解を「キャラ優先説」という。「今年の生徒がそうだ」と決めつけているわけではない。「2500名も見ているとそういう傾向がみられる」という話だ。愛称を「イチゴちゃん」「ピエロくん」という。「相手からこう思われたい」「自分の立ち位置ではこうすべきだ」という考えが強く働きすぎてしまうと、ネタに走ったり、気取ったりして、自分の興味をまっすぐ見つめなくなる。関心もないのに、それ風味の題材をチョイスする。キャラ優先説の生徒が選びがちな題材がある。女子の場合、紅茶・茶・アイス・チョコレート・ディズニーランド・カルピスなど。男子の場合、くだものや食品（バナナ・リンゴ・うどん・サツマイモ・ラーメン）など。男女共通の睡眠やコンビニもある。いずれも「研究企画書の動機や意義に説得力がない」という症状で判定できる。人にどう思われようと、自分のこだわりを題材にする。「なんでやねん」ではいつでもそれが正解である。

#### ④「論文筆写説」という誤解:コピーちゃん/ヒツシャーマン

ある生徒がやってきて言った。「先生、論文は資料を写す以外になにをすればいいのですか」。正直といえば正直だ。「丸写し作業だけで論文が作れる」そんな誤解を「論文筆写説」とした。愛称は「コピーちゃん」「ヒツシャー（筆写）マン」である。確かに論文は丸写しの引用なしにはできない。しかし、その引用した資料にコメントを加えたり、比較したり、編集するからこそ、論文ができあがる。つまり、写したうえで、考えて書かないと論文は書けない。そんなことならコピー機にだってできる。

#### ⑤「論文評価分量説」という誤解:ハカリくん/グラムちゃん

論文がただ写すだけで作れるのなら、評価がどれだけ写したかで決まる、と考えても不思議ではない。論文が「分量」で評価されるという誤解が「論文評価分量説」だ。愛称は「ハカリ君」「グラムちゃん」。以前、「論文が課題です」というと、打てば響くように「何枚?」というセリフが返ってきた。「1文字1点だったりして」とつぶやいた生徒もいた。

#### ⑥「考えれば解決説」という誤解:オトメちゃん/Mr.ロダン

腕を組んで、頭を抱えて、悩んでいけば題材やテーマが決まる、と考える生徒がいる。この誤解を「考えれば解決説」といい、愛称を「(悩める)オトメちゃん」とか「Mr.ロダン(考える人)」と呼ぶ。題材やテーマが「むこうからやってくる」ことは普通ない。テーマはこちらが「迎えにゆく」ものだ。立ち上がって本棚に行き本を手取る、現場に立つ、友達にテーマをぶつけてみる。そうして頭と体を動かすからこそ、手がかりが見つかる。図書館には研究を成功させる「隠し扉」が無数にある。その扉の向こうには財宝がザクザクだ。当然だが、扉を開けないと宝は見つからない。「隠し扉」を探す手間を惜しむ者に、新しいステージは訪れない。同じステージをぐるぐる回ってゲームが面白くなるわけがない。

#### ⑦「学習内容天降り説」という誤解:雨乞い君

学ぶ内容はいつでも先生が決めて与えてくれる、という誤解だ。題材やテーマが「天から降ってくる」ように思いこむので「学習内容天降り説」という。愛称は「雨乞い君」だ。「『睡眠』ですけど、なにしたらいいですか」といわれれば、「勝手にして下さい」としかいえない。研究内容は自分で決める。先生は決めない。

このほか、自分がとにかく「好き」な研究企画を、資料も探さず主張する「スキスキちゃん」、マスコミのそれらしい話題に飛びつく「ラッシー君」、他の生徒のマネをする「怪獣ポケモン」などがいる。

①～⑦の誤解のどれにもあてはまる自分がいても不思議ではない。要は、そうした誤解に強くしぼられなければよい。何度でも繰り返す。テーマ変更・試行錯誤は当然だ。三日坊主を恐れるな。そうすれば自分の興味はかならず見つかる。興味は自分を裏切らない。あきらめないでがんばってほしい。

問1 楽ちゃん・コスバ野郎は、なぜ「なんでやねん」で大変な思いをするのか、答えなさい。

問2 イチゴちゃん・ピエロくんは、なぜ自分の興味に正直になれないのか、答えなさい。

問3 ①～⑦でもっとも印象深い誤解は何か。ひとつに丸をつけなさい。

# どうして「ネット」ではなく「本」なのか

信頼できる参考文献を使って、信頼される卒業論文を書く

## 「先生、こんなのネットで調べた方が早いですよね」

君たちからこんな意見をよく聞く。確かにその通り。図書館で本を選んで、必要な情報を引用して…そんな作業をするよりも、Web(ネット)検索してコピーをする方が早い。Webのキーワード検索機能が、論文執筆の上ではとても優秀なツールであることは間違いない。

しかし、Webページでヒットする検索結果と、そこに書かれた情報は、「信頼性」と「再現性」の二つの観点から、論文で引用するには使い辛い。総合学習の授業で「まずは本を読め」という理由はここにある。君たちの論文を読む、未来の後輩たちのために、この二つの観点を保証する必要がある。

## 資料の信頼性をどうやって見極めるのか

本の最後のページには「奥付」という責任表示がある。これは、本が世の中に出版される時のルールだ。奥付があることで、本に書かれている内容は一定の信頼性を得ている。著者や編集者、出版社、発行年月日、改訂版(書き直し)といった情報を明記することは、本の記載内容について責任をとれる人間や組織がいて、責任をとることを表明している事を表明している。

また本の著者は、自分が本を書く上で参考にした情報の出典元を、きちんと明記している場合が多い。自分の書く本が、自分の頭の中だけで考えたものや、出所のわからない情報源を元に書いたものではなく、正確で信頼性の高い情報を元にして書いたものであることを示すためだ。これら奥付や出典の表記は、信頼するにたる良い本を見極める方法として役立つ。

一方で、Web上にある情報には、出版業界の「奥付」のようなルールは存在しない。不特定の個人が情報を簡単に発信できるからだ。そのため、いつ、誰がつくったWebページなのかが記載されていないことが常である。

また、出典で情報源を示さない、示していても出典を辿れないこともしばしばある。ネットの世界にはルールがないので、信頼性の高い情報に巡り会うためには、利用者に相応のスキルが求められるのだ。

監修者  
小松和彦 (こまつ・かずひこ)  
1947年生まれ。国際日本文化研究センター所長。埼玉大学教育学部教養学科卒業、東京都立大学大学院社会科学研究所(社会人類学)博士課程修了。専攻は文化人類学・民俗学。  
主な編著書に『いざなぎ流の研究 歴史のなかのいざなぎ流 太夫』(角川学芸出版)、『妖怪学新考』(講談社学術文庫)、『妖怪文化入門』(角川ソフィア文庫)、『妖怪文化の伝統と創造』(セリカ書房)、『妖怪学の基礎知識』(角川選書)など多数。

著者や監修者の来歴

出版された日や、出版に関わった人々

日本怪異妖怪大事典  
2013年7月10日 初版印刷  
2013年7月20日 初版発行  
監修者——小松和彦  
編集委員——小松和彦・常光徹・山田奨治・飯倉義之  
発行者——小林悠一  
印刷製本——亜細亜印刷株式会社  
発行所——株式会社東京堂出版  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-17  
電話 東京 03-3233-3741 振替 00130-7-270  
ISBN978-4-490-10837-8 C0539 © Kazuhiko Komatsu 2013  
Printed in Japan

## 再現性は情報の「寿命」である

Web上の情報は、本のような「モノ」としての性質を持たない。一度出版されれば印刷物として世に残る本に対して、Web上にある情報は、Webページにアクセスした時にしか情報を再現することができない。このため「同じURLなのに内容が書き換えられている」「情報を保管しているサーバーの移転などでURLが変わる」「数年後にはホームページが閉鎖していた」といったことが起こる。

Web資料の収集・保存事業に取り組む国立国会図書館によると、行政機関が運営するWebページが、5年後にも同じURLで、同じ情報のまま存在している可能性は、たったの31%にすぎない。これは、Web上にある政府発行の情報を出典として本や論文を書いても、5年後には7割近くのURLが消えてしまっているか、内容が変化していることを意味する。政府発行資料ですらこの状態であるならば、私企業や個人のサイトの現状は、容易に想像できるだろう。現在のところ、Web上にある全てのWebページを、常に記録し続ける装置は社会に存在しない。Web情報は常に書き換わり続けているのだ。

これに対し、印刷物として世に残る本は、一度出版されれば本そのものが紛失や破損しない限り、勝手に消えることはない。また、内容に変更が生じ、書き換えられた場合は「新版」という新しい版が出版される。これらのことから、インターネット資料よりも図書資料のほうが、再現性の点でも優れているのだ。

## 図書資料とインターネット資料を使い分ける

本の著者は、そのテーマについて一生をかけて研究してきた人々だ。また、執筆から出版までの過程にはたくさんの人々が関わっているため、信頼性が高く、調べたい概念を基礎から深く、きちんと理解するのに適している。また、学校図書館にあるのは、図書館の先生方が1冊ずつ選んだ本だ。中学生の君たちにも読みやすい本や、参考文献として成り立つような信頼性の高い本が多くある。

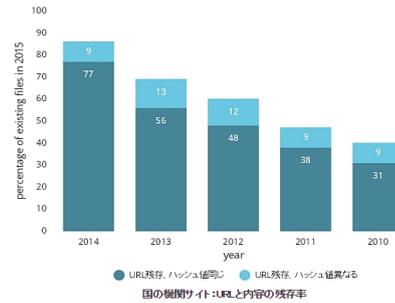
世の中に山ほどある本やWebページから、苦労して信頼性の高い資料を探すのは大変だ。論文執筆において、学校図書館の本を使わない手はない。何より図書館司書は調べ物のプロで、「調べる」ことに対するたくさんの知識や経験を蓄えている。資料探しに困ったら、まずは司書の先生や、公共図書館の司書に聞いてみよう。論文執筆に使える、有効な資料を教えてくれるはずだ。

Web資料は、使うには経験やスキルが必要だ。しかし、うまく使いこなせるようになれば、みなさんの論文執筆を強力にサポートしてくれる。たとえば、まだ本に載っていないような最新の情報や膨大なデータ、誰も本にまとめていないような細かな情報が存在する。自身とテーマが近い研究者の論文を検索すれば、先行研究として、あなたの研究にヒントをくれるだろう。

心構えとして持ってほしいのは、その情報を誰が、いつ書いたものなのかを、常に意識してあたることだ。信頼性や再現性の高い情報と、そうではない情報。これらは本にもWeb上にも、どちらにも存在している。出典や奥付、情報を発信した人の背景など、細かな点にアンテナを張って情報を収集しよう。

■ URLと内容の残存率

URLが残っているものに限定して、内容に変化があったかどうかを示したのが以下のグラフです。各年ともある程度の割合(9~13%)で、内容が変化していることがわかります。2010年を見ても、URLが残ったかつ内容も全く変化のないものは31%で、残りの69%はURLが消えたかまたはURLが残っていても内容は完全に同じではなくなったことがわかります。



以上のことから、ウェブサイトが時間の経過とともにどのくらいアクセスできなくなったり、内容が変化、消失したりするのかわかります。WARPのほか[世界各国でウェブアーカイブが行われている](#)のは正にこうした実状に対処するため、本分析の結果は[その重要性を再認識させるもの](#)となりました。

出典：国立国会図書館「インターネット収集保存事業」(2019/06/13,参照)

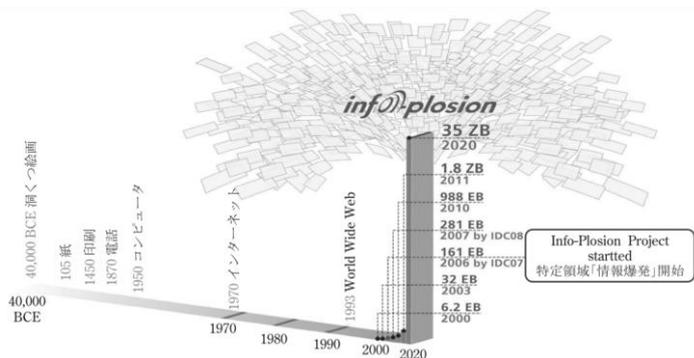
# Web を使って文献を探す

－ネットの波に溺れないための「泳ぎ方」－

## 情報化社会の理想と現実

現代は「情報化社会」と呼ばれる。高度に発達した情報端末を駆使し、ネットワーク化された情報網をいつでもどこでも扱うことができ、誰もが情報のやりとりをする事ができる、そんなユートピア（理想郷）を想像するだろうか。しかしこの言葉は、そんな単純な理想郷を意味するだけのものではない。

インターネットの一般化(2000年頃)以降、世界を巡る情報の量は増え続けている。この状況を、社会情報学の領域では**情報爆発**(図1)と呼ぶ。人類は、かつてないほど大量の情報に触れる時代を歩んでいるのだ。しかし情報量が増えるほど、全体に対する欲しい情報の割合は少なくなる。Web や検索エンジンの登場によって利便性が向上した一方で、的確な情報を探すためには、これまで以上に多くの時間や、検索技術が必要になったのだ。



(図1) 喜連川『情報爆発のこれまでとこれから』(2011)  
<https://www.ieice.org/jpn/books/kaishikiji/2011/201108.pdf>  
 原典：IDC『The Diverse and Exploding Digital Universe』

## Web 資料を目利きする

情報に「これは間違いない」はない。本でも Web でも、どんな情報であっても、疑う姿勢を常に持つことが最も大切な事だ。さらに、手に入れた複数の情報を評価する時には、様々な条件や状況を考慮して「こちらの方がよい」という判断を下す。常に「この情報は使えるのか？」と疑うことが必要である。自分がみている Web サイトに対して、特に ①「出典がたどれるか」②「『事実』と『意見』の明確な区別があるか」③「執筆者の素性が明らかであるか」をクリアしているかチェックしよう。

出典の記載がなく、情報の出どころが辿れなければ、確かな情報か確認のしようがない。事実と意見の区別がなければ、データなどに基づく“事実”なのか、執筆者の“思ったこと”なのかがわからない。執筆者が何者なのかがわからなければ、その情報内容に対して責任をとれる者がいない。Web 資料はこれらを念頭に目利きすることで、参考文献として使えるかどうかを判断することができる。

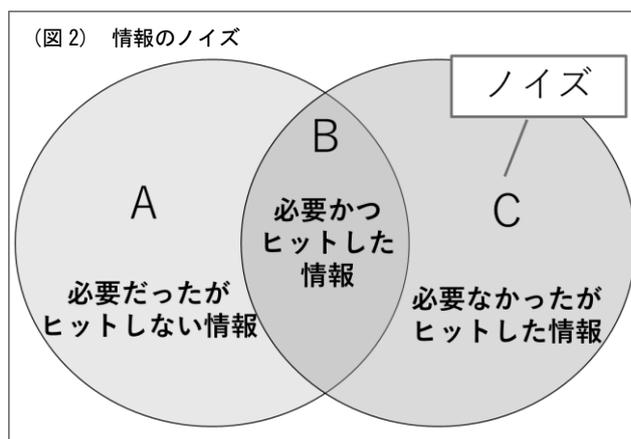
では、これらをクリアしていそうな、“使える Web サイト”はどのようなものがあるか。それには「ニュース・報道資料」「研究レポート・論文」「政府・公的機関発行資料」「企業・民間機関資料」などが該当する。これらの Web サイトは、先述した 3 点のチェック項目をクリアしている可能性が高い。公的な組織として Web 資料を掲載している場合がほとんどで、間違ったことを書くことができないからだ。

要するにこれらのサイトを、初めから検索候補として探せばよい。研究論文は、学問に対する誠実性が求められる。どこの誰が、どのような出典に基いて書いたのか、わからないような Web サイトを、参考文献にすることはできない。そのようないい加減な Web サイトを参考にした研究は、いい加減な研究にしかなり得ないのだ。

## 検索精度を上げる

単純に Web 検索を行っても、いい検索結果は得られない。検索結果には様々な「要らない」「信頼できない」情報が混じるからである。このように、使えないにも関わらず検索結果にヒットしてしまう情報を「情報のノイズ」(図 2)と呼ぶ。有効な検索のためには、これを減らす工夫が必要なのだ。

検索結果のノイズを減らし、“使える Web サイト”を集めるテクニックと心構えを伝授しよう。



## 運営者で Web サイトを判断する

“使える Web サイト”には、前頁で示した「ニュース・報道資料」「研究レポート・論文」「政府・公的機関発行資料」「企業・民間機関資料」などが該当する。これらは“使える Web サイト”を、その運営者や執筆者によって大まかに分類したものだ。ただの個人の私見でなく、よくわからない肩書きの、よくわからない人物の言葉でもない、専門的な組織の見解が基準となる。

見ている Web ページがどういった運営者によるものか、一目で判断する手助けになるのが「ドメイン」だ。インターネット上の「住所」のようなもので、URL の特定箇所(図 3)に位置する。この「ドメイン」を見ることで、サイト運営者を大まかに判別することができる。

(図 3) ドメインの記載箇所

<https://www.city.kawachinagano.lg.jp>

<https://www.seikyو.ed.jp>

ドメインは国内の Web サイトを管理する組織によって発行されている。一定の手続きを踏まなければ取得することができないため、信頼できる Web サイトをある程度判別できる材料になる。代表的なドメインは下記の通り。ただし、ne.jp や.com は取得が容易であるため、注意が必要である。

	go.jp	lg.jp	or.jp	ac.jp	ed.jp	co.jp	ne.jp .com
サイト 運営者	政府機関 独立行政 法人	地方 公共団体	財/社/医 など 非営利 法人	高等教育 機関 大学など	初・中等 教育機関 小/中/高	民間企業 新聞社	その他

## 検索キーワードを工夫する

Web 検索では膨大な Web サイトがヒットする。そのため、検索キーワードによって「ノイズ」を減らすことも有効だ。調べたいキーワードをスペースで区切り、ドメインや、情報の種類、ファイル形式(PDF 等)を加えることで、さらに情報検索の精度は上がる。

インバウンド 現状 lg.jp

インバウンド 現状 論文

Google 検索

I'm Fer

Web 検索は何気なく使っていてもいい結果は得られない。その特性を知り、目利きし、能動的に情報収集を行えるようになって初めて、ネットを活用できる人といえる。

# フィールドワークの段取り

## 論文作成の「華」は6つのステップ

どなたかに直接取材するのは、手間も勇気も必要だ。しかし、それでも出かけるべきなのだ。というのも、論文にオリジナルな素材を提供し、論文に向かう気持ちを切り替え、テーマ設定を深め、かけがえのない思い出をもたらすという効果があるからだ。論文作成をふりかえって「フィールドワークが一番面白かった」という先輩がたくさんいる。

### ステップ①：取材先はどこか・どなたか

取材先は様々だ。研究対象の商品やサービスを提供している企業や業界団体、公官庁などの組織、大学の研究者、幼稚園や専門学校などの教育機関、専門家（ダンサー・評論家など）、医療・福祉施設、研究者や議員など個人も取材先となる。

比較的規模の大きな企業は取材を受け入れて頂ける場合が多い。とはいえ、若者に人気の企業の中には断る場合もある。また、研究者で著名な方は「マスコミ以外の取材には応じない」といった返事をいただく場合も多い。

ともあれ、「お会いしたい」という強い気持ちが必要だ。取材先を決めたら事前の情報集める。読める資料は本でも論文でもウェブ上でもすべて読む。

### 段取り②：連絡先はどこか

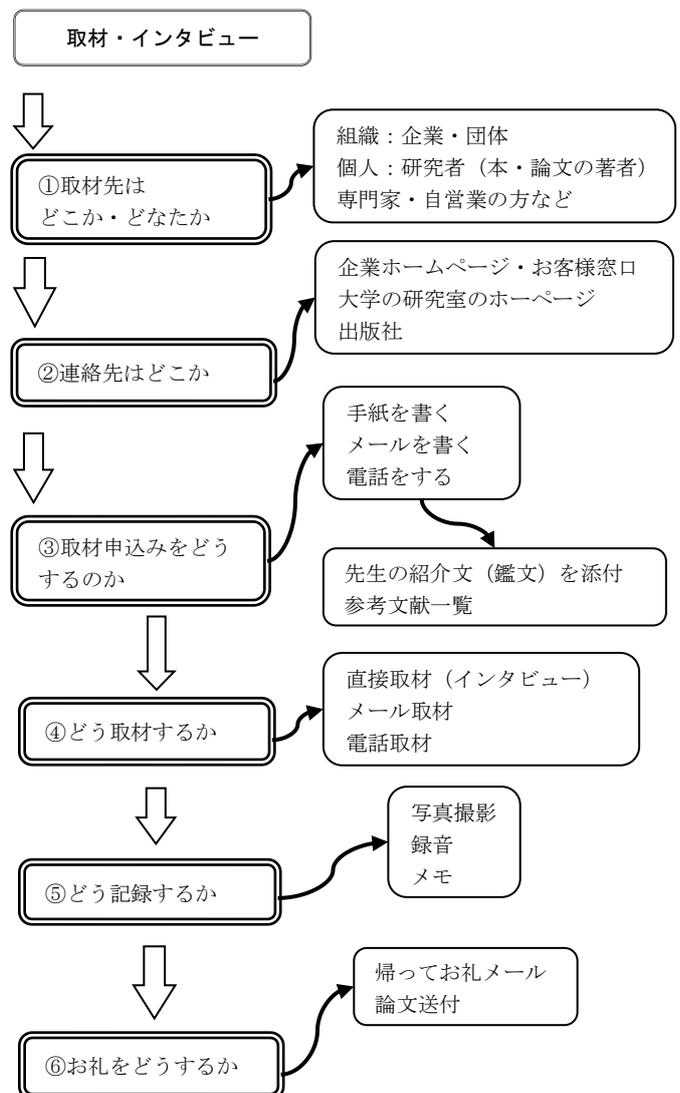
インターネットを使うと住所や連絡先は大概調べられる。企業はホームページに「お客様窓口」「消費者担当」「広報」など窓口がある場合が多い。たとえ窓口がなくても本社の住所に送れば大丈夫だ。団体・官庁の場合も同様である。大学の研究者の場合は研究室のサイトなどがよい手がかりになる。また、たとえば競技の審判や着物・インテリアコーディネーターなど専門家とお会いしたい場合、協会や業界団体に手紙を送り信頼できる方を近くで紹介して頂く、という方法も有効だ。

### ステップ③：取材申込みをどうするのか

正式な申し込みには手紙がふさわしい。何より誠意が伝わる。詳しくは次節の「手紙の書き方」を参照する。また、やり取りのしやすさではメールがよいので手紙に自分のメールアドレスを必ず書く。一方、いきなりの電話は相手の時間を奪うので避ける。もちろんアポ（面会の約束）なしの取材は相手に迷惑だ。

### ステップ④ ⑤：どう取材するか／どう記録するか

取材方法には直接取材（インタビュー）・メール



フィールドワークのステップ

取材・電話取材等がある。直接取材が原則である。ただしお相手が遠くにいらっしゃる場合はメールでのやりとりや時間を決めた電話取材も可能だ。

録音・写真撮影・メモのすべてで記録できれば一番いい。論文には必要な写真をいれなければならない。もちろん撮影も録音も前もって必ず断ってから始める。また、なるべくお相手から名刺を頂く。「お名刺を頂けますか」という。名刺にはその方の肩書や連絡先がある。記録をフルネームで書くのは当然の礼儀である。

### ステップ⑥：お礼をどうするか

取材直後にお礼のメールをする。その後、可能であれば、完成論文に礼状を添えて贈呈する。きっと喜んでいただける。取材の時に手土産が必要だろうか。中高生の取材ですから、持参しなくてもあまり問題はない。しかし、保護者の方と相談して持参してもかまわない。

### フィールドでの事故防止のために

フィールドワーク先は必ず先生と相談して決める。事故防止のために以下の三点は守る。

- ① 保護者への「ハウレンソウ」。ハウレンソウは、「報告・連絡・相談」の略だ。取材場所や日程・取材内容は保護者の方が把握していなければならない。当日は帰宅時間も決め、携帯電話を持参し、いつでも連絡がとれるようにする。
- ② 単独取材を避け複数で行動する。トラブルへ予防でもあり、インタビュー時に間が持つ、という利点もある。保護者の方に送って頂くのも選択肢とする。
- ③ 個人の研究者・専門家への取材依頼は慎重に行う。ホームページがあるからといって安易に取材するのは禁物だ。コンタクトを取る前に必ず先生に相談する。

なにしろフィールドワークは授業のように順調には進まない。そもそも折角手紙を書いて出したのに返事が来ない、という例も多い。ある生徒は返事が来ないので、テーマを変え、別の申し込み先から取材許可を頂いた。ところが、前後して最初の申し込み先から取材許可が来る、という悩ましい状況に陥った。結局、その生徒は両方に取材をして、そのどちらもが素晴らしい経験になった。

取材先に向かう途中電車が遅延する、時間を間違える、バス停が分からない…。フィールドワークでは普通社会で起こることはなんでも起こる。実は、そんなアクシデントの報告が面白かったりする。「怪我の功名」である。

### フィールドワークはあなたと社会の接点をつくる

これまで多くの方々がフィールドワークに協力して頂いた。取材を受け入れてさえ頂ければ、例外なく懇切な対応をしていただける。

現場に働く方々のもとに、興味を持って教えを乞う生徒がある日現れる。すると「中学生から取材されたのは初めてでしたが、私たちの仕事に強い関心を寄せてもらえて、ありがたかった」という感想を頂くことも珍しくない。

一方で、生徒はいろいろな段取りを経て、緊張してフィールドワークの当日を迎える。そのプレッシャーは相当だ。とはいえ、取材を終えてみると「すごくよかった。いい話をたくさん聞けた」と明るい表情を見せてくれる。フィールドワークはみなさんとリアルな社会との接点をつくる。こうした出会いこそが長く記憶に残り社会を知るよき経験となる。

# 養鶏の現場を訪れる：鶏肉はこうして生産される

清教学園探究科 教諭 片岡則夫

日時：1991年8月〇日 11：00～12：00

場所：K畜産ファーム

〒294-0801 千葉県館山市〇〇番地

取材した方：K畜産ファーム オーナー 庭野西乃さん（仮名）

・「いつ」「どこで」「だれを」が取材では一番重要。  
・後で読んでいただく。肩書と氏名は正確に。そのためにも名刺を頂く。

## 養鶏場を訪れるまで

常体文「だ」「である」で書く。

夏休みになった。ひさしぶりに、千葉県南房総市郊外のI君の家に遊びに行った。同じ大学時代の研究室の、自然を愛する友人である。

「ニワトリをさばいて食べようよ」

「やろう、やろう、どこからニワトリを手に入れよっか？」

「電話帳に載ってないかな」

「こんなことがあったんよ」と誰かに報告するように書くと書きやすい。この「物語り」のなかに自分が登場することで自分の観察や考察が生き生きと記録される。

電話帳で養鶏場を探して電話を入れてみる。日曜日でなかなか電話が繋がらない。ただ一件、「K畜産ファーム」だけに人がいた。高校の教師なのだが、ニワトリを教材にしたいのでわけて頂きたい、できたら鶏舎を見学したいのだが…、とこちらの事情を説明すると、快く請け合ってくれた。さっそく訪問することになる。

## 養鶏場はこんなところ

小見出しをいくつも入れるのが親切。

友人の大きな四輪駆動車に乗り込んで、緑でむせ返るような、房総の山の中を走って小一時間。細い道をひたすら上ったり下りたりしていくと、目指す養鶏場、K畜産ファームが現れた。周囲に人家は見えない地域だ。

養鶏場の入り口で応対してくれたのはオーナーという中年の女性。名刺を出して二人が千葉と神奈川の県立高校の理科の教師であることを示して挨拶すると、すでにオスとメス各1羽のニワトリをカゴに用意してくれていた。それを渡しながら彼女が言う。

「お金なんていらなから」

それでは申しわけない、というのだが、どうしてもお金は受け取ってもらえない。しばらくの押し問答をして、結局、有難く頂戴することになる。ニワトリを2羽カゴにつめて車の後ろに入れ、案内されて車ごと養鶏場の敷地に入る。せっかくなので見学させてもらうことになった。

内部は考えていたよりもずっと広い。高校がひとつは入る面積だろう。とはいえ、なにか白っぽく殺風景な雰囲気である。まず目に入るのが巨大な鶏舎だ。幅15m 奥行き約200mだという。青いトタンでおおわれていてひとつも窓がない。この鶏舎が5つならんでいるのだが、なにせ200mである。建物の向こうは霞んで見ることができない。夏の盛りで気温は30度を超えているだろう。ニワトリのにおいも鼻を突く。

トラックも入るだろう大きな扉を開けて、薄暗い鶏舎の中に入る。目の前には薄汚れたニワトリたちがいた。かれらは静かにたたずんでいる。もっと元気で動き回っているかと思いきや、ただぼんやりと静かに立っている。

## 静かなニワトリのじゅうたん

窓のない鶏舎の中でしだいに目がなれてくると、目の前に200mの白いじゅうたんが広がった。視界の届く限りずっと奥までニワトリである。こんな光景は想像したこともなかった。

この養鶏場では夏場は全体で約14000羽のニワトリが育てられているという。小さな電球がポツリ、ポツリとついてはいる。しかし、生き物に満ちている、という雰囲気があまりしないのはいったいどうしたことだろう。

壁面にはずらりと直径1メートルもあろうかという換気扇が回っている。

「あ、換気扇の上から霧がでてますね」

「あれで気温を下げていますよ。暑さには弱いんだよね。ニワトリは32度が限度なんだよね。鳥たち口をちょっと開いているでしょう。あれは暑いときにあはするんです。もっと暑くなるとそのうち尻で息をするようになって、羽をふくらませるようになりますよ」

「尻で息を？」

「そう、お尻をヒョコヒョコさせるようになる…。もっと暑くなると最後には立ちあがって、ここまでくるともうだめ…。10分かそこいらで2000羽が死んだこともあるんだよ」

鶏舎の温度の管理には相当気を使っているようだった。特に7、8月のこの季節は風向きひとつで何百というニワトリが死ぬことも珍しくないらしい。

そこで私は迂闊にもこんな質問をしてしまった。

「クーラーをつけたらどうなんですか？」

すると女性は語気を強めていった。

「そんなことしたらやってられないよ！」

45日から60日をかけて育てた1羽が出荷のときにわずか500円ぐらいだという。価格競争が激しいために、いかにコストを下げるかが勝負なのだ。クーラーをつけている余裕などないに決まっている。

コストをさげるための技術はこの鶏舎の暗さにも表れている。鶏舎が暗いのはわざとそうしているのであって、これを「ウインドレス (window-less…窓がない) 鶏舎」という。部屋が暗ければ暗いだけ、文字通り「鳥目」のニワトリたちは動くことをしない。したがってその分、無駄なく餌が肉になる。商社の丸紅から仕入れるという輸入の麻の実の飼料と水とは、タンクからニワトリたちの間に、無くなった分だけ自動的に供給される仕組みになっている。

入口近くにニワトリの死骸が幾つか転がっているのを見つけると、彼女が言った。

「淘汰されるんですね」

高い密度では必ず何%かのニワトリがこうして死んでいくという。

卵からふ化して40日くらいから出荷が始まる。40日は人でいえば5歳程度だという。よく肉屋さんで鶏肉に「ひな鳥」「若鳥」と書かれているのはそのためだ。ブロイラーと言われるこの品種は、40日～50日で体重・筋肉が最大になるように品種改良されているので、それ以上飼育をすることはない。私たちが食べる鶏肉のほとんどがこのように生産されている。

会話を再現すると臨場感がでる。主旨が変わらなければ、多少その時の会話と違って構わない。

お聞きした話を、自分なりにまとめて構わない。

## 病気予防に薬の投与

暑さのほかにも養鶏業者が恐れることがあるという。それは秋や春に起こる病気だ。いったん病気が発生した場合は一つの鶏舎（ということは数千羽）がまるごと駄目になることもある。

特に「ニューカッスル」「マレック」「ガンボロ」とよばれる病気に対しては予防のため、3種混合の予防薬がニワトリの飲み水の中に入れられる。ヒナ鳥を鶏舎に放して3日目、13日目、27日目にそれぞれ投与されるのだという。また鶏舎の土にも予防の薬を散布する。薬の残留の恐れがあるため、出荷8日前以後薬は使わないというものの、病気でもないニワトリが多く予防薬を体内に取り込んでいるのはどこの養鶏場でも同じだろう。

考えてみると、たとえ病気になってもニワトリに対する「治療」ということはあまり考えていないのである。やはりコストがかかりすぎるからである。自ずと治療よりも予防に重点がおかれることになる。

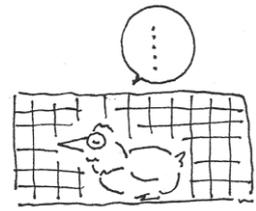
病気がどこからくるのかその経路を聞いて驚いた。病気を運ぶ犯人は「野鳥」なのである。ムクドリ、ヤマバト、カラス、スズメ、特にムクドリが「タマゴ屋」つまり卵をとる養鶏場から病原菌を運んでくるのだという。「気管の病気が多いんですよ」

と、言うやいなや、女性は足元あのニワトリの亡骸なきがらを手にとって、口からスツツと喉を裂いて見せてくれた。クチバシの上下を両手にもって裂いてしまうのである。I君が思わず顔をしかめた。

なるほど病気の診断にはこのやり方が手っ取り早い。裂いた喉の中はきれいだったが、ここに病変が現れるのだという。



・ブロイラーは脚が大きくみえる。足から成長をするためにひな鳥は脚が大きくみえる（イヌも人もそうなのだ）。人でいえば5歳程度で体格がいちばんよくなるように品種改良されている。



かごに入った鳥はなぜかおとなしい。



A ふだんの状態→B くちで息をする→C 尻で息をする→D 立ち上がる

気温が上がるにつれて鳥の姿勢が変わる（イラスト筆者）

### 養鶏場ではたらく人々

「何人でここはやっているんですか？」

聞くと、家族でこの近くに住んでいて、普段は夫とのふたりきりだという。たったのふたりで 14000 羽の世話をしている。ちなみに年間では 70000 羽が生産されているのである。

「出荷の時期には外国人の人を呼びますよ。日本人じゃもうやり手がなくて…」

成長したニワトリをかごに詰めて出荷するにはどうしても入手が必要になる。ここではイランからの労働者が多いのだそうだ。3か月の観光ビザで入国して期限いっぱい働いて帰っていくという。

「言葉は通じるんですか？」

「アラビア語と英語と日本語のチャンポンだね。ネコがいるでしょ？『ゴルベー』ってむこうじゃ言うらしいよ。『キヤット』って言うと両方がわかるね。そうしてなんとか普段の会話はなるね。お互いに勉強してね。あたしに『マダム、ありがとう』とかいってくれるよ」

日本で3か月働いて帰ると、イランに帰って家が立つそうだ。しかし、その作業は聞いただけで大変だ。おびただしいニワトリの出荷で難聴になることも珍しくないらしい。

撮影しようとカメラのフラッシュを光らせた瞬間、「ババッ」と一斉にニワトリがはばいた。ホコリや羽が一斉に舞った。

「…大変ですね…」

「いきものだからね。面倒くさがっちゃだめ。ホントは、こうして日曜も養鶏場に出てでてこなけりゃ、ニワトリはきちんと育たないよ…」

電話帳で調べて電話した4つの養鶏場のうち電話か通じたのはここだけだったから、日曜は人のいない養鶏場が多いのだろう。

「かわいいよ。大事に育ててやらないとね。」

そういう言葉を聞いてなぜかほっとした。考えてみると、女性はニワトリのことを「この子」とか「にわとりさん」とか「ひよこさん」と呼んでいる。さながら工場のような雰囲気の中の施設の中であって、女性のその言葉使いに温もりを感じることができたからかもしれない。

報告中に自分の感想や感情が入っても構わない。その方が臨場感がでる。

まとめ・考察の小見出し。

## 「経済動物」という動物たち

「経済動物」という動物たちがいる。「産業動物」ともいう。経済的な行為として飼育される動物をさしている。「家畜」といったほうが一般的だろう。つまり、野生動物でない私たち人間と接点のある動物は、愛玩動物（ペット・コンパニオンアニマル）と産業動物にわけられる。このうち、日々お世話になっているのが経済動物たちだ。お昼のお弁当の中にあって、ひとの体を支えてくれている肉は、たとえばこのようにして生産されている。

この報告でも述べた通り、経済動物の最大の特徴は、「経済性」だ。言い換えれば、いかに安く、いかに多くの肉を生産できるか、そのために養鶏場・畜産農家のみなさんは日々努力をしている。

今回はひとつの養鶏場をとりあげた。しかし、そこからは、たとえばニワトリという経済動物の飼育環境、抗生物質の利用、輸入飼料、外国人労働者など、様々なトピックが現れた。小さなひとつの現場には、よく見ればたくさんのきっかけ、ヒントがかくれていた。

※以上の記録は 1991 年当時のものである。飼育方法や規模・抗生物質の投与方法などは現在では変わっている可能性がある。経済動物の飼い方(福祉)に関心のあるひとは図書館を探してほしい。

※この文章は全体で約 4000 字である。

# 卒業論文「なんでやねん」チェックシート（初級）

すべての指示はテンプレートに。目標 10000 字・ピース 20 個

## テーマと「はじめに」「おわりに」

- <問い=テーマ>がはっきりしない。疑問形になっていない。問いがふたつある。  
タイトルあるいはサブタイトルがない。言葉の重複
- テーマを絞る・限定する。「～とは」は調べ学習になりがち  
大きすぎ/好き好き/HOW TO / 未来予測 / 高度すぎ / 現在進行形/すでに解明
- 「はじめに」がない。→企画書の「意義」の項目
- 「おわりに」がない。→企画書の「動機」の項目
- テーマにした言葉がなにを指しているのかあいまい(定義が不十分)。

## ピースの書式・構造について

- 段落が入っていない。
- 引用が青文字になっていない
- 引用の最後に「文献表示」がない。例→(霜月,2008,p.211-212)
- まくら・コメントがない。
- 自分の言葉が常体文(だ・である)に統一されていない。
- 不要な空白行がある。 空白行がない。
- ピースに小見出しがない。
- フォントがおかしい(見出しはゴシック体、他は明朝体)。
- ピースの最後に出典がない(引用・参考文献を作るときに文末に移動)。
- 出典の表示方法が不正確。
- 引用あるいは要約が長すぎる。原則 10 行以下。

## 出典(引用・参考文献)とその表示

- 同一資料からの引用が多すぎる。
- ウィキペディアを利用している。
- ネットからの引用が多すぎる。ネットからの引用ルールが分かってない。  
参照日・発信者が不明。
- 出版社名は「株式会社」を取る。

## フィールドワーク

- フィールドワークがない。分量不足。
- いつ・どこで・だれを(肩書・フルネーム)がはっきりしない。
- フィールドワークが詳細に報告されておらず、もったいない。申込の経緯・雰囲気・服装・態度…。
- 小見出しを入れて整理がされていない。 Q&A になっている。
- 写真や図や表・グラフがない。写真を大きく。
- 写真・図表の「文字の折り返し」をしていない。

## 現在の大きな評価

- 危機的状況。書き出す元気がなければ、今のテーマをやめて別テーマを探る。
- 今のテーマでは完成は難しい。もっと具体的な事柄に着目してピースをつくる。
- 内容分量不十分(ピース不足・文字数不足)。
- コピペ・調べました学習・混乱・完成までの道のりは遠い。
- チェックをする段階に至っていない。
- 「書かないから書けない」症候群?

タイトル

まくら  
(自分の言葉)

引用 青文字  
(ひとのコトバ)  
(著者, 出版年, ページ数)

コメント  
(自分の言葉)

出典(引用文献の出所)

研究ピースの構造

表紙

メインタイトル (問い)  
サブタイトル (答え)

はじめに

- ・何を<問い=テーマ>とするのか
- ・なぜの論文を書くのか、「社会的な意義・価値」
- ・各章の要約と結論までを紹介

目次

I 章

章マクラ

Five shaded rectangular boxes representing the main body of Chapter I.

章まとめ

II 章

章マクラ

Five dashed rectangular boxes representing the main body of Chapter II.

章まとめ

III 章

章マクラ

Five dashed rectangular boxes representing the main body of Chapter III.

章まとめ

〇章 FW

章マクラ

Five shaded rectangular boxes representing the main body of the Final Chapter (FW).

章まとめ

終章

- ・各章の議論 (まとめ部分) を振り返る。
- ・結論 (問いに対する答え) を明記

引用・参考文献一覧

おわりに

はピースを示す



論文の全体構造



## 用・参考文献一覧

文献は名字（姓）の 50 音順

### 【図書】

小松和彦（2011）『妖怪学の基礎知識』角川学芸出版  
霜月たかなか(2008)『コミックマーケット創世記』（朝日新聞）  
笠原一男（1977）『日本宗教史』山川出版社  
横道万里雄（2007）「山姥」『改訂新版 世界大百科事典』（28 卷）平凡社

※引用・参考文献一覧は【図書】  
【論文・雑誌記事】【Web ページ  
記事】を区別して書く。

※ピースの下の出典が最後にこ  
こに移動して集まってくる

### 【図書の場合】

**著者名（出版年）『書名：副書名』出版社名**

霜月たかなか(2008)『コミックマーケット創世記』朝日新聞社

### 【図書の一部の場合】

**著者名（出版年）「見出し」『書名：副書名』出版社名、始めと終わりのページ**

名和小太郎（2006）「交流ではなく直流」『エジソン理系の想像力』みすず書房 p.  
47-50

### 【百科事典の場合】

**項目の著者名（出版年）「項目名」『事典名』出版社**

小松和彦（1988）「山姥」『世界大百科事典』（4 卷）平凡社

※ポプラディアの場合は「項目の著者名」は不要。

### 【論文・雑誌記事】

【論文・雑誌記事の場合】（ネットからコピーした論文もここでよい）

**著者名（発行年）「記事(論文)名」『雑誌名』（特集名）巻号 始めと終わりのページ**

片岡則夫（2012.4）『『探究的な学習』の手順：学習局面に応じた援助が学校図書館を育てる』『学  
校図書館』（特集：調べ学習を問い直す）第 738 号 p.26-28

### 【Web ページ記事】

【インターネット上の資料の場合】（URL はサイトトップまでの省略した形でもよい）

**Web ページを制作した人・団体名（更新年月日）「Web ページの記事タイトル」URL（参照年  
月日）**

文部科学省（2001.10）「留学生の受け入れ概況（平成 13 年版）」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/011002/011102h.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/011002/011102h.htm)（2001  
年 1 月 1 日参照）.

## 卒業研究チェックシート（上級）

### A テーマと目次・序章

- <問い=テーマ>がはっきりしない。疑問形になっていない。
- テーマを絞る・限定する。「～とは」は調べ学習・好き好きテーマ。
- <答え=結論>がはっきりしない。
- <問い=テーマ>と<答え=結論>が対応していない。
- タイトルあるいはサブタイトルがない。言葉の重複。科学的・未来を予測するテーマ。
- 序章がテンプレート通りに書かれていない。研究の意義がわからない。
- 目次がない。目次の筋が通っていない。

### B 論文の書式・構造について

- 章の変わり目が改ページされていない。
- 不要な空白行がある。→小見出しを入れてわかりやすくする。あるいは空白行がない。
- ピースの構造が不十分。
- 小見出しが必要。(小)マーク。
- 内容が不連続で前後関係がわかりにくい(不)マーク。唐突な展開(唐)マーク。
- 章・節・小見出しの位置やフォントがおかしい。(テンプレートや先輩の論文を参照)

### C 出典（引用・参考文献）

- 出典が明示されていない(出)マーク。コピー。自分の意見と引用・要約を区別。
- 出典の表示方法が不正確。p. ● pp.●～●が使えない・
- 引用あるいは要約が長すぎる。原則10行以下。あるいは同一資料からの引用が多すぎる。
- ウィキペディアの利用。ネットからの引用が多すぎる。参照日・発信者が不明。
- 論文の最後に引用・参考文献の一覧がない。
- 脚注を使う。

### D 写真・図表（グラフ）

- 写真や図や表・グラフがない。
- 写真・図表の「文字の折り返し」をしていない。
- 写真や図表にタイトルや説明の言葉（キャプション）がついていない。→読者は写真や図表から読む。
- 写真の撮影者・出典が明示されていない。

### E フィールドワーク

- フィールドワークがない。もったいない・分量不足。
- フィールドワークを詳細に報告。申込・雰囲気まで。写真使用。小見出しを入れる。

### J 現在のたまかな評価

- 内容分量不十分（ピース不足・文字数不足）。
- コピー・調べました学習・混乱・完成までの道のりは遠い。
- チェックをする段階に至っていない。